

# 所報

<Shoho>

川崎市総合教育センター

〒213-0001 川崎市高津区溝口6-9-3

TEL 044-844-3600

代表メール KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp

ホームページ http://www.keins.city.kawasaki.jp/

## 子どもたちの心の居場所「教師としての覚悟」



川崎市総合教育センター 所長 小松 典子

先日、NHKの番組で「僕の自学ノート」という、自らの家庭学習のノートを17冊も作成した男子生徒のドキュメンタリー番組に出会いました。学校の中に自分の居場所や楽しさを見いだせず、自分の興味関心のある分野の学びをノートに綴り続け、原稿用紙50枚に及ぶ大作『ぼくのあしあと 総集編』で、第9回「子どもノンフィクション文学賞」大賞(中学生の部)を受賞した男子生徒の話です。周囲の人とは違う自分、学校には自分の居場所はなく、楽しいこともない。小学生時代に始めた自由学習。担任からのメッセージをきっかけに、中学生になっても続け、自分だけの学びをノートに綴っていく中で、その学びを認め応援してくれる大人に出会い、自分の存在感や生き方と向き合い、「学校には行きたくないけど休まない」と登校し、現在は高校2年生。彼の学びと生き方を支えたのは、自学ノートに綴られた彼の疑問や考えに、真摯に答える大人の対応、そして何よりも、「あなたのままでよい」という家族や周囲の大人の理解ある関わりです。「子ども一人ひとりの良さを見つけ伸ばしていく」。私たち教師の役割の大切さを分かっていたはずでしたが、この番組に出会い、改めて「教師として、覚悟をもってこれまで関わることができていたのか」と、深く内省させられました。

さて、ひきこもりの問題が大きな社会問題となっている中、令和元年10月に、「平成30年度 川崎市立小中学校における児童生徒の問題行動等の状況調査結果」が報告されました。各学校に毎年4月ごろに調査をお願いしたものです。いじめや暴力行為等の調査も含まれますが、長期欠席についての川崎市の概要は、病気・その他を除く不登校児童生徒数は全国と同様に増加傾向で、小学校で前年度の430人から99人の増加、中学校は1242人から96人の増加となっています。不登校の要因として回答が多かったのは、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「学業の不振」であり、その分類として「無気力」「不安」の傾向が増加しています。

近年の不登校児童生徒数の増加傾向を鑑みて、今年度、教育相談センターの研究として、小中学校を対象に、「新たに不登校になった児童生徒」に焦点を絞り調査に取り組みました。不登校となった

「きっかけ」「背景」「支援」という大きな3つの視点で、各学校には調査を依頼いたしました。大変ご苦勞をおかけしましたが、ご協力をいただき感謝申し上げます。1月29日の研究報告会にて報告する予定です。今後、文部科学省が児童生徒への抽出調査を実施する予定とのことですので、その結果も注視しながら、効果的な取組や関係機関も含めたより良い関わり方等を、研修等を通して広く学校へ還元し、不登校対策の取組を進めてまいります。その中で、調査項目の不登校の「きっかけ」として「学校に居場所がない」「学校が楽しくない」と回答した割合が、小学校34.2%中学校39.3%であり、中でも「学校に居場所がない」と回答した割合が、小学校8.7%中学校10.6%でした。不登校の要因は複雑に絡むものでありますが、改めてこの状況を真摯に受け止め分析し、改善に努めなければと考えています。

不登校にならない子どもを育てる支援として、「未然防止」「初期対応の大切さ」が挙げられます。未然防止には全体と個への対応がありますが、その中で「成功は成功例から学ぶ」という考え方で不登校の未然防止につなげている取組があります。休みがちになってしまいそうだが、休まず学校に来ている子どもの背景には何があるのか、大人がどのような関わり方をしているのか等を考えることが重要です。その子どもの心の居場所がどこにあるのか、子どもの心を支えているものが何であるのかを、しっかりと見極めることが、その子どもだけでなく、多くの子どもたちを救う手立てにつながるのです。冒頭でふれた男子生徒の心の居場所は自学ノートであり、彼を認め続けた家族であり周囲の大人であったことは、いうまでもありません。

「子どもたちの心の居場所としての学校」を創っていくためには、私たち教師が一人ひとりの子どもにしっかりと向き合い、「教師としての覚悟」を持たなければ、確かな居場所を創ることは難しいのかもしれない。見せかけだけの居場所では繊細な子どもたちには見透かされてしまいます。様々な状況や課題が予想されるこれからの社会を考えると、「教師としての覚悟」という言葉は、とても重い言葉ですが、改めて自らに問いかけ、しっかりと考えていきたい言葉です。

### 令和元年度『所報』第2号 主な内容

【巻頭言】	特別支援教育センター	4
子どもたちの心の居場所「教師としての覚悟」	教育相談センター	5
カリキュラムセンター	【特集】	
情報・視聴覚センター	キャリア在り方生き方教育とSDGs	6

## 学習評価について

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることは、児童生徒の資質・能力の向上に資するものであり、そのためには、学習評価の在り方が極めて重要になってきます。

各教科等の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされています。

児童生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものです。

なお、各教科の評価については観点別学習状況の評価と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について実施するものとされていますが、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒の一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされています。

## 学習評価の基本構造

学習評価の在り方  
ハンドブック

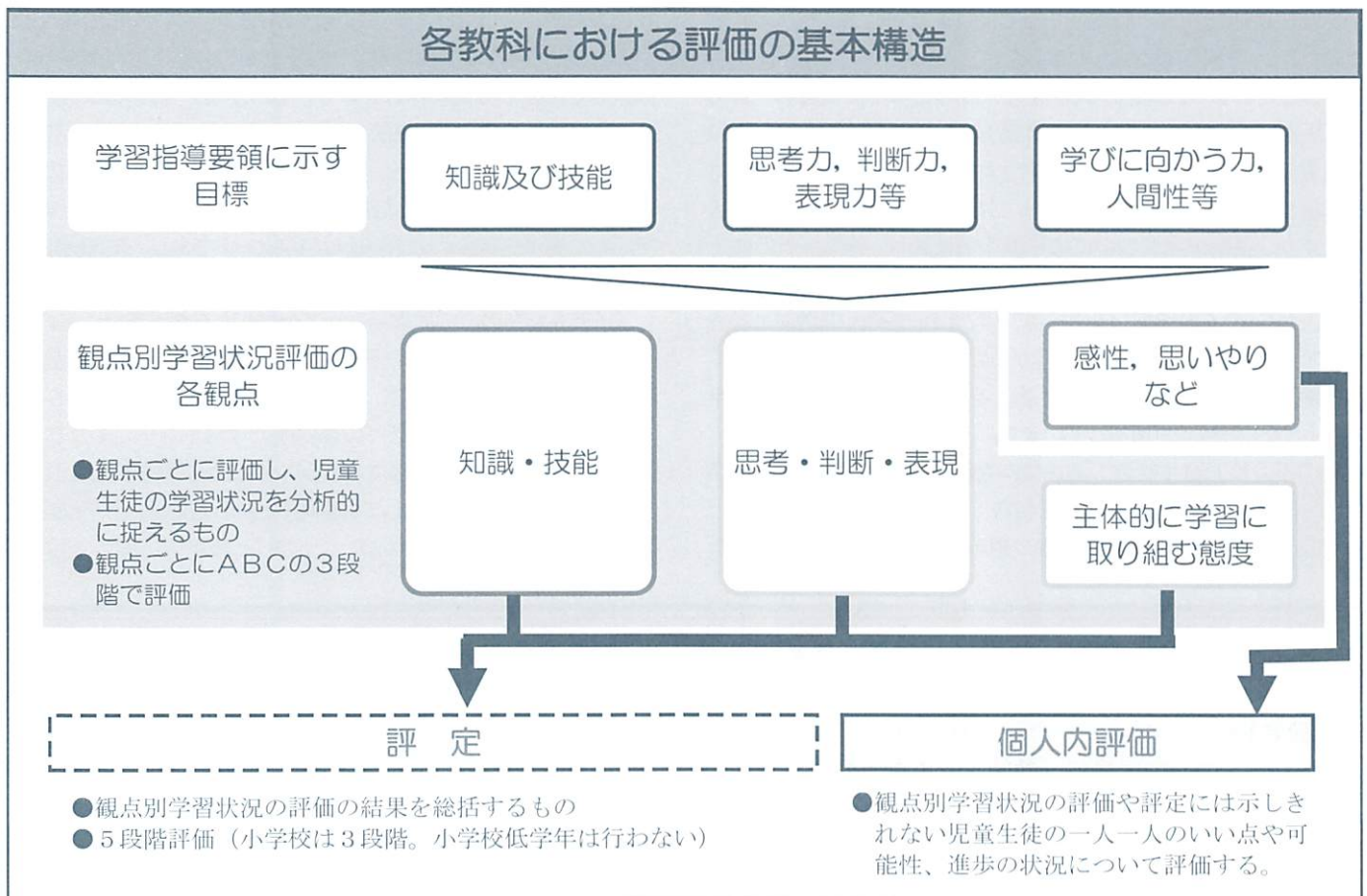
平成 29 年度改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点到に整理されています。



小・中学校用



高等学校用



情報・視聴覚センターでは、児童生徒が情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力を育成していくとともに、教員が未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育む「学び」やそれを実現していく「学びの場」を形成するために、ICTを効果的に活用した授業の実現に向けた取組を推進しています。

## 今年度の「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」の取組について

### 方針1. 情報活用能力のさらなる育成と 各教科等の指導におけるICT活用

#### ○川崎市版モデルカリキュラムの作成

教育情報化推進モデル校において、情報活用能力育成のためのモデルカリキュラムの検討に向けて研究授業を行いモデルカリキュラムを作成しています。

また、2020年度から必修化される「小学校におけるプログラミング教育」について、各学校が取り組みやすいような具体的実践例を提案していきます。

#### ○情報モラル教育の充実

情報モラル教育に関する調査の実施結果から、各校種の実態に合った取組ができる内容等の情報提供をしています。また、「川崎市版保護者向けインターネットガイド」を作成し、保護者に家庭でできる情報モラル教育への関心を高めてもらうとともに、家庭でのルール作り等の協力を呼びかけています。



### 方針2. 子どもたちの学びを支えるICT環境の充実

#### ○校務用コンピュータ、教育用コンピュータ及び周辺機器の充実

「小学校39校教育用コンピュータ整備」「川崎高等学校・附属中学校教育用コンピュータ機器整備」「校務用コンピュータ整備」を行いICT環境の充実を進めています。

#### ○校務支援システムの積極的活用及び教員の負担軽減

令和2年度からの次期校務支援システム導入に向け、今年度の検討委員会では具体的な仕様を検討し、導入に向けての準備を進めています。

また、学務システムにおいては、現行システムの改善とともに新学習指導要領や高大接続改革への対応も含めたシステム更新を進めています。

#### ○学校ホームページの充実による積極的な情報発信

担当者の負担軽減となる更新のあり方について協議しています。

### 方針3. 教育の情報化を推進する上での支援体制の充実

#### ○教員のICT活用指導力の向上

「学校情報化認定」の活用も含めた教科指導におけるICT活用を支援しています。

#### ○教員研修の充実と新たな研修計画の立案

希望研修は「新学習指導要領」への対応を含め、時代を考慮した研修を計画しています。

#### ○情報セキュリティポリシーの改定や情報セキュリティ研修の実施

情報通信技術の進歩に伴う情報セキュリティポリシーの改定を進めるとともに、児童生徒の個人情報の取扱い等に関する研修を行っています。

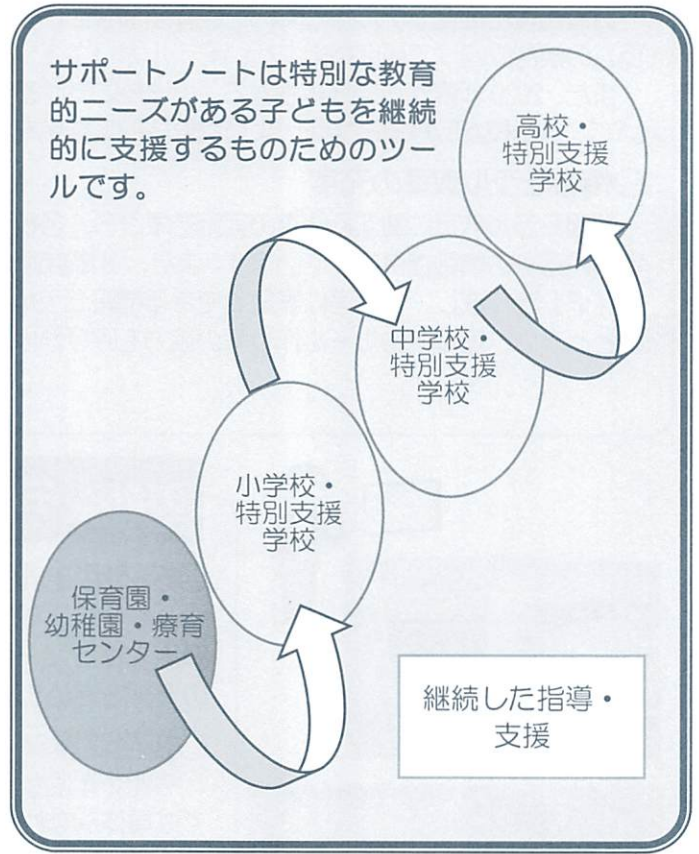
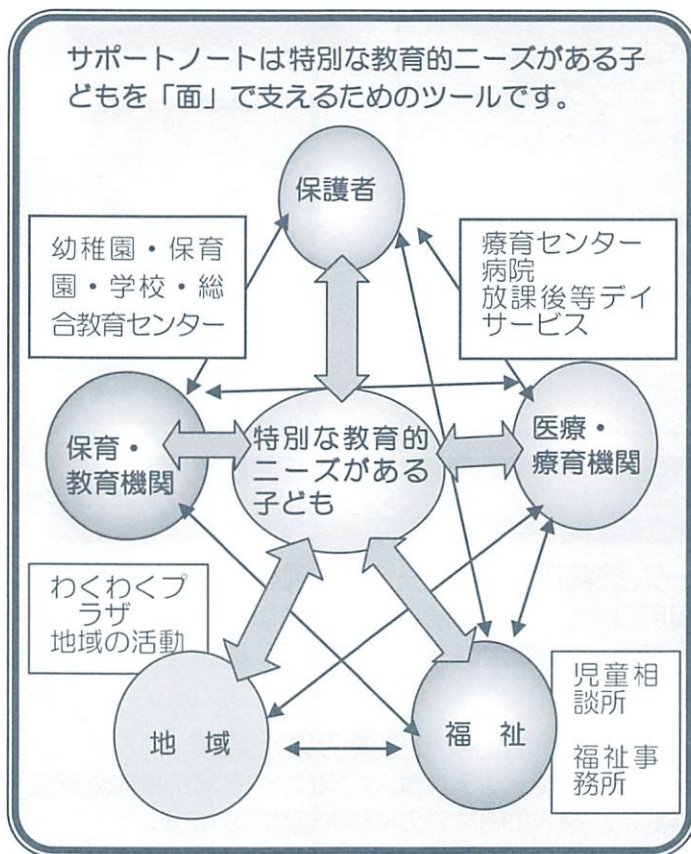


## 個別の教育支援計画についてご紹介します

個別の教育支援計画とは、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、乳幼児から学校卒業後までの長期的な視点に立って、医療、福祉、労働などの関係機関と連携し、子どもに合わせた指導及び支援を行うための計画です。

子どもの成長にとって、子どもに関わる保護者や関係機関が連携を取り合って、指導・支援していくことはとても大切なことです。個別の教育支援計画を保護者も関係機関も利用していくことで、子どもの教育的ニーズを共有し、一貫した指導・支援を行うことにつながります。学校で行われる教育相談や進路相談などで、個々の子どもの教育的ニーズを明らかにし、保護者と共通理解をしながら、必要な支援をどこで、どのように継続していくかを確認しましょう。

川崎市では「個別の教育支援計画」を「サポートノート」とし、作成しています。特別支援学級・特別支援学校の在籍児童生徒一人一人について作成することになっています。



「個別の指導計画」は「個別の教育支援計画」のうち、担任や教科担当が学校生活・学習に関する目標や支援内容を示したもので、きめ細やかな指導や支援を行うための計画です。特別支援学級、特別支援学校に在籍する児童生徒だけでなく、通級指導教室を利用している児童生徒についても作成することになっています。

個別の教育支援計画（サポートノート）、個別の指導計画を活用しましょう

- ♡保護者とともに作成することで、保護者の願いを汲んだ教育活動ができます
- ♡子どもを取り巻く関係機関（教育・福祉・医療等）との連携がスムーズになります
- ♡進学や転学の際に引き継ぐことで、連続性のある支援ができます



不登校家庭訪問相談は、川崎市に在住する不登校の状態の児童生徒やそのご家庭を対象とした相談活動です。この相談活動は、不登校状態にあって、家に閉じこもりがちな児童生徒のいるご家庭を家庭訪問相談員が定期的に訪れて、児童生徒や保護者の方との相談を行っています。

## 「このような状態にある子どもたちのご家庭に訪問しています」



- ・家に閉じこもりがちになっている
- ・外出することが少ない
- ・家族以外の人と接することが少ない
- ・家庭以外では相談できない 等

### 実施日・時間

月～金の9：30～16：00  
(祝日、年末年始、12～13時を除く)

## 「家庭訪問相談員との面談を通じて」(不登校家庭訪問相談員より)

「子どもとは、時間をかけてゆっくりと関係づくりをしていきます。時には一緒に勉強したり、ゲームをしたりすることもあります。子どもの気持ちに寄り添い、本人が語りだすまでじっくりと待ち、自分で一步を踏み出せるように見守っていきます。家庭に訪問したときに必ず会えるとは限りませんが、信頼関係が築かれていくと、学校や勉強のことなど、自分の思いや考えを話してくれるようになります。そこから『あなたは〇〇したいんだね。』と会話を進めていきます。」

「保護者の方とは、保護者の困り感や子どもの様子などをじっくり聴きます。今の困り感から将来どういう方向にしていきたいかなど、気持ちに寄り添いながら保護者の話を聴いています。相談員が家庭に外からの風を入れることにより、話が終わると少し笑顔が見られます。時には泣きながら会話が進むこともあります。しかし、ちょっと肩の荷が下り、ほっとした気持ちになって、明日に向かって頑張っていこうとする姿が見られることがあります。」



### 「子どもの様子」

- ・自分の今の気持ちを言語化して表現するようになり、言動にも力強さが見られるようになった。
- ・行動に落ち着きが出てきて、イライラ感が減った。
- ・部屋から出て、一緒に食事をするようになった。
- ・将来のことを前向きに考えられるようになった。
- ・少しずつだが、家を出られるようになった。
- ・自分のペースで学ぶ姿が見られるようになった。 等

### 「保護者の声」

- ・一緒に考えてくれる人がいるのでホッとします。
- ・子どもの気持ちに寄り添えるようになりました。
- ・子どもの良いところを伝えてくれるので、自信につながっているように思います。
- ・子どもの今の様子を受け入れ、気持ちに寄り添うようにしたいと考えられるようになりました。 等

## 「相談までの流れ」

1

・保護者から電話申し込み (☎844-3700)

2

・初回面談の日程調整 (担当相談員より連絡します)

3

・初回面談 (溝口相談室 or 塚越相談室にて行います) ⇒ 家庭訪問相談開始

※詳しくは「溝口相談室 (☎844-3700)」までお問い合わせください。

# キャリア在り方生き方教育とSDGs

「SDGs (エスディーゼーズ)」という言葉や、最近、目や耳にしたことはありますか？テレビや新聞で報じられることも多くなり、最近、授業で取り上げたという実践例も増えてきています。

SDGsとは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称です。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標となります。持続可能な世界を実現するための17のゴールで構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。

新学習指導要領の前文において「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあります。



本市では、各学校が「子どもたちに身に付けさせたい力」を設定し、キャリア在り方生き方教育に取り組んでいます。身に付けさせたい力は、持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な能力・態度ともつながりがあるものです。各学校のこれまでの取組を大切にしながら、再度、SDGsの視点でつながりを確かめてみてください。

## <市内の学校での取組を紹介します>

### [枳形中学校]

平成15年度からエネルギー環境教育に取り組んでいます。『地球環境を見つめ、自らの生き方を考える環境教育』を主題として、校内研究のテーマである「気づき・考え・行動する生徒の育成」を踏まえてサブテーマを設定しました。エネルギーや地球環境について「講演会」「調べ学習」「話し合い活動」等に主体的に取り組む中で、地球規模での環境の変化と私たちの生活との関わりに気づき、エネルギーや環境の問題を自分ごととして考えて探究していく姿勢や思考力等を身に付けることをねらいとしています。

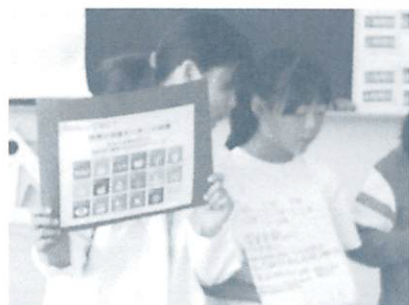
環境の保全について、どのように行動できるのかを模索し、問題や課題の解決能力を養っているところです。



「プラスチックを切り口として環境について考える」

### [藤崎小学校]

3年前から生活科・総合的な学習の時間に学んだ内容を「藤崎ふれあいフェスタ」開催とあわせ各学年がワークショップ形式で発表しています。6年生では『私たち かわさき育ち』をテーマに地域について探究して深めた課題について、ニュース番組形式や人形劇、パワーポイントを使ってわかりやすく伝えました。学年の先生方がSDGsの研修会に積極的に参加し、持続可能な社会づくりの視点から子どもたちの学びを支援しています。2月8日(土)には多くの学校が参加する「エネルギー・環境子どもワークショップ in 川崎2020」で、5年生が水の学習を通して学んだ「環境を守る取組」について発表する予定です。



「SDGsとバスの利用について」

持続可能な未来のために、教員である私たち一人一人にも、できることは数多くあります。2030年の世界を変え、その先に引き継いでいくためにも、SDGsを「自分ごと」として捉え、社会課題に関心をもつことが大切でしょう。是非、ご自身で、また子供たちと共にSDGsについて考えてみてください。